

小中学校の児童生徒に1人1台

タブレット端末で新たな学び

村は、国が推進するGIGAスクール構想の実現に向け、村内小中学校の全ての児童生徒に、1人1台のタブレット端末と高速通信ネットワーク環境を整備しました。ここでは、大河原小学校で行われた授業を例に、ICT(情報通信技術)を活用した学習についてご紹介します。

▼教育委員会事務局 ☎24-5120(内線204)



プログラミングソフト「Scratch(スクラッチ)」を使用

GIGAスクール構想とは

児童生徒1人に1台端末を導入するとともに、高速通信ネットワークを一体的に早期導入する、国が推進する「GIGAスクール構想」。これは、ICT(情報通信技術)を活用して、子どもたちの資質や能力を最大限に引き出し、育成していく取組です。

各学校にタブレット端末を配備

村はこれを受け、村内の全小中学校で必要となるタブレット端末の配備と無線LANでの高速通信ネットワーク環境を整備。4月からの本格活用に向け、端末を使った新たな授業が始まりました。また、各学校関係者やPTAの代表者からなる「情報教育推進委員会」を立ち上げ、各学校や家庭での活用方法や留意点について随時検討しています。

大河原小学校の授業では

大河原小学校林徹志校長で2月10日、5年生の算数の授業で「正多角形をかこう」をテーマとした授業が行われました。

子どもたちは、タブレット端末で直感的にプログラミングが体験できるソフトウェアを使い、正方形を描きました。まず、画面上に直線を引いたら、線の向きを直角に回転させ、この動きを4回繰り返すプログラムです。この考え方を応用し、正五角形、正六角形など多角形を描きながら、回転させる角度と繰り返し回数にどんな法則があるかを考えました。

子どもたちは、正多角形といった手描きが難しい図形を画面上で描き、角の数をどんどん増



1人1人が「Chromebook(クロームブック)」端末を使い学習を進める



操作しながら使い方を確認



電子黒板に端末を接続して自分の考えを説明

やしていくことで、多角形が徐々に円に近づいていくことを知ったほか、中には、中学校で習う角度の求め方に気づいた児童もいるなど、充実した授業となりました。

授業の感想を聞きました

楽しい授業でした

プログラミングをするだけで、簡単に図形を描くことができ、正十角形や正二十角形のように簡単に描けない図形も一瞬で完成しました。タブレットを使った授業は楽しかったので、また受けたいです。



宮内 琉衣さん

効果的に活用していきたい

タブレット端末を初めて授業に導入したばかりですので、これから授業のどんな場面や単元で活用することが効果的なのか、試行錯誤していきたいです。

また、本校は総合的な学習で県の指定校となっており、プログラミングなどをどう使ったら学びが深まるのかも考えながら、徐々に進めていければと思います。



担任 萩原 真志 先生